

令和2年

Y8サミット創快横手市議会

政策提案

令和2年Y8サミット創快横手市議会 政策提案目次

- (1) Y8提案第1号 シニア世代と小中学生の『楽校郷育』プランについて
(横手明峰中学校からの提案) 1ページ

- (2) Y8提案第2号 スマート農業の導入促進について
(平鹿中学校からの提案) 2ページ

- (3) Y8提案第3号 SDGsを意識したまちづくりについて
(横手清陵学院中学校からの提案) 3ページ

- (4) Y8提案第4号 若者の移住・定住の促進について
(増田中学校からの提案) 4ページ

- (5) Y8提案第5号 横手愛プロジェクト～ポイントカードの発行～について
(横手北中学校からの提案) 5ページ

- (6) Y8提案第6号 農業支援組織の設立について
(横手南中学校からの提案) 6ページ

- (7) Y8提案第7号 横手市ホームページや市報を利用した各校の活動の発信
(十文字中学校からの提案) 7ページ

Y 8 提案第 1 号

シニア世代と小中学生の『楽校郷育』プランについて

横手明峰中学校から次のとおり政策提案する。

令和 2 年 1 1 月 1 9 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手明峰中学校

〔提案説明者〕^{ふじわらつばさ} 藤原光翼 議員、^{えむらかずま} 江村一真 議員、^{さとうここね} 佐藤心音 議員

〔提案要旨〕

シニア世代と小中学生が、休日の学校校舎を活用して交流を深めながら共に学び合う、『楽校郷育（がっこうきょういく）』プランという、高齢化社会における生涯学習の新しいプランを提案する。

横手市は現在、60 歳以上の老年人口が 4 割近くを占めており、まだまだ元気なシニア世代のセカンドライフを支援するプランは不可欠であると考えます。一方、小中学生の日常を考えると学校での生活が中心であり、同世代との交流はあっても、異世代、とりわけシニア世代との交流はほとんどない状況である。

そこでシニア世代と小中学生の交流の場として休日の学校を利用してはどうだろうか。さまざまな分野のサークル活動をそこで実施し、小中学生も希望すれば参加できるようにすることで、異世代交流を進め、やがて単なる交流の域を超えて、地域の伝統や文化を受け継いでいく場へ発展することが期待できる。また、地域の伝統や文化を単に受け継ぐだけでなく、未来へと発展させていくためのアイデアも必要である。シニア世代と小中学生がともにアイデアを出し合い、話し合う場に発展することも期待できる。

学校は小中学生だけのものではなく、地域の皆にとって大切な学びの場であり交流の場であってほしい。そんな『楽校郷育』を実現することができれば、横手市はさらに魅力あるまちへと変わっていくと考える。

Y 8 提案第 2 号

スマート農業の導入促進について

平鹿中学校から次のとおり政策提案する。

令和 2 年 1 1 月 1 9 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



平鹿中学校

〔提案説明者〕 ながさわりょう 長澤 亮 議員、 こまつこうだい 小松航大 議員、 しみずわかな 清水和奏 議員

〔提案要旨〕

横手市は県内でも有数の農業生産量を誇っているが、農家の高齢化と若者の転出、減少による農業労働力の不足が課題となっている。この状況を解決するため「スマート農業の導入促進」を提案する。農業用ドローンや、栽培管理支援システム、センシング技術など多くの先進技術があるが、横手市が先陣を切ってスマート農業を進めることで「横手の農業」の知名度を上げ、若者の転出の歯止めや若者を呼び込むことにつなげる効果が期待できる。「スマート農業」を横手の売りにして推進してはどうか。そのために次のような策を提案する。

1. スマート農業を広く知らしめる

農家の間でもまだ認知度が低いため、具体例を載せたパンフレットを配布して認知度を上げたり魅力を伝えたりする。また同時に市が独自に導入を援助し、それを広くお知らせする。

2. 電子機器の扱い方教室の開催

高齢者は電子機器の扱いが不得意な傾向にあるため、扱い方を学ぶ場を横手市で設定し、スマート農業に対応できるようにする。

Y 8 提案第 3 号

SDG s を意識したまちづくりについて

横手清陵学院中学校から次のとおり政策提案する。

令和 2 年 1 1 月 1 9 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手清陵学院中学校

〔提案説明者〕 たにかわあずはる 谷川東霸 議員、 たかはしこゆき 高橋胡如 議員、 いとうしゅんすけ 伊藤駿介 議員 議員

〔提案要旨〕

SDG s を意識したまちづくりをすることで、全国的、全世界的に独自性のある都市として PR できると考え、次のことを提案する。

1. 横手市が現在行っている政策を SDG s のターゲットと結びつけて、横手市民が SDG s について意識できるようにする

新しい政策をするのではなく、例えば、第二次横手市総合計画の 7 つの政策を SDG s のどのターゲットと関連付いているのかを明記することだけでも、市民、秋田県の他の市町村、他の都道府県、全世界の都市に、横手市が SDG s について意識して取り組んでいるということをアピールすることができると思うがどうか。

2. 横手市の企業と SDG s の視点に基づいてコラボする

大仙市ではタニタとコラボし、大仙市民や大仙市の事業所で働く人で希望する人に活動量計を配付し、その活動量をポイント化して、ポイントに応じてギフトと交換する政策を始めている。一時的には赤字になるかもしれないが、2030 年には、年間医療費 22 億円の削減を目指している。この政策は SDG s のターゲット「3 すべての人に健康と福祉を」と関連付いており、横手でも、SDG s の視点に基づいて企業とコラボすることによって、横手市の利益になる政策ができると思うがどうか。

Y 8 提案第 4 号

若者の移住・定住の促進について

増田中学校から次のとおり政策提案する。

令和 2 年 1 1 月 1 9 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



増田中学校

〔提案説明者〕 たかはしりん 高橋鈴 議員、 さとうたいよう 佐藤大耀 議員、 すずきあきのり 鈴木暁紀 議員

〔提案要旨〕

現在、横手市、そして秋田県全体で人口が減少している。特に若者の減少が激しく、原因として考えられることは進学や就職で県外に流出してしまうことである。県外への若者の流出を止め、県外に出た人が帰ってきたいと思えるようにするために、次の 2 点を政策提案する。

1. 「Y ターン」政策 … 移住者を呼びこむ県の「A ターン」の横手市版
 - ①テレワークで勤務する都会からの移住者や帰郷者にも便利な Wi-Fi 環境が整った「ふるさとオフィス」を駅前に設置し、ミーティングスペースやフリースペースも設け誰でも気軽に利用できるようにする。
 - ②カーシェアリングを進め、車を持っていない都会からの移住者でも大丈夫な仕組み作りをする。
 - ③現在、移住に関する補助金は東京 23 区で働いていた人などに限定されているが、これを撤廃し全国から受け入れる。
 - ④「Y ターン」についてよこて fun 通信やフリーペーパー、ポスターなどで首都圏をはじめとした県外にアピールする。
2. 子育てアプリの作成
横手市の子育てに関する情報はホームページが主だが、若い世代ならだれでも持っているスマートフォンで利用できる「子育て応援アプリ」を作って子育てを応援する。

Y 8 提案第 5 号

横手愛プロジェクト：ポイントカードの発行について

横手北中学校から次のとおり政策提案する。

令和 2 年 1 1 月 1 9 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手北中学校

〔提案説明者〕 ^{たかはしたいき}高橋泰生 議員、^{はぎわらゆう}萩原優 議員、^{きくちあやね}菊地彩愛 議員

〔提案要旨〕

横手愛プロジェクトの取り組みに注目し、ポイントカードの発行について提案する。そもそも横手愛プロジェクトは市民全員に知ってもらう必要がある。ポスターやリーフレットといった既存の P R 方法に加え、新たにポイントカードを導入することで横手愛プロジェクトを全面的にアピールできると考える。横手市では 10 月 1 日からプレミアム商品券を導入し、経済の活性化を図る取組がスタートした。大型店用・中小企業店用の 2 種類がセットとなっているが、横手愛プロジェクトをより一層知ってもらうことで、地元のお店にも商品券が多く流通し、横手の経済がさらに活性化すると考えるがどうか。

【具体策（案）】

- ①窓口の設置（本庁舎・南庁舎・各地域局・公民館等）
- ②各窓口でポイントカード配布 ※横手市民のみが利用できる
- ③各窓口でのみポイントが付加（金額の合計でポイントを付加）
- ④〇円ごとにスタンプを押し、〇個ごとに粗品や割引券とする
- ⑤有効期限を設ける。例えば発行日から 1 年間有効など
- ⑥割引券として利用する場合は加盟店の全てで使える
- ⑦割引券を利用された店は、市に申請し補助金を受ける
- ⑧粗品の横手の物産については、定期的に内容を変更する
- ⑨主な粗品については、横手市観光課とタイアップし協賛してもらう
- ⑩お年寄りがお得に気軽に利用できるシステムを設定する
シルバーカード（60 歳以上）でポイントアップなども検討

Y 8 提案第 6 号

農業支援組織の設立について

横手南中学校から次のとおり政策提案する。

令和 2 年 1 1 月 1 9 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手南中学校

〔提案説明者〕 さとうちひろ 佐藤千寛 議員、 まつむらけいと 松村慶斗 議員、 みずたまりゆいこ 水溜結子 議員

〔提案要旨〕

横手南中学校でアンケート調査を実施したところ、農業に関わる横手市や J A の取組がほとんど認知されていないことがわかった。横手市の強みである農業と農業に関連した職業があれば、職業選択の幅が広がるだけでなく、若者の市外流出に歯止めがきくと考える。まだ就農していないが新規就農を考えている方、興味がある方を含めて横手の農業をサポートする「農業支援組織の設立」を提案する。

1. 農家を対象とした農機具の貸し出し

農業を始めるにあたっては土地や農機具、暖房等の設備に多額の初期投資が必要になる。そのため就農にためらいをもつケースも少なくない。農機具の貸し出しによって就農時に必要な予算を抑え、余裕をもって就農することが可能になる。

2. 新規に農業を始める人に向けたセミナーの開催

家業として農家を継ぐ場合が大半で、新規の就農が極端に少ない。家族経営が多いため、労働形態や経営規模、費用など、分からないことが多いのが実情であるが、それらを学ぶ機会も多くはない。こうした知識を身に付ける場としてセミナーを開催し、イメージの変革を促す。

3. 農家と飲食店をつなぐ仲介役としての役割を持たせる

地元の農産物を地元の飲食店に活用してもらった「地産地消」の成功例を見ると、農家と飲食店との間の密接なつながりが必要となる。この仲介役を組織が担うことで成功例のような取り組みが可能となる。

Y 8 提案第 7 号

横手市ホームページや市報を利用した各校の活動の発信

十文字中学校から次のとおり政策提案する。

令和 2 年 1 1 月 1 9 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



十文字中学校

〔提案説明者〕 かわぐちおうか 川口桜加 議員、 おぐにみさき 小國実咲 議員、 おだれい 織田怜依 議員

〔提案要旨〕

高齢化が進む現在において、地域の子どもの活躍を広く発信し理解を得ることは、高齢者に活力を与えたり、地域の交流が広がったりして、横手市のさらなる活性化につながると考え、次のとおり提案する。

1. 横手市ホームページを利用した発信について

横手市にある中学校はすべてブログやホームページがあり、特にブログでは日々の学校の様子が紹介されている。しかし、閲覧者はそれほど多くなく、関係者以外のアクセスはほとんどないのが現状である。そこで、横手市内小中学校のホームページやブログのリンク集を Y 8 において作成し、同ページで各校のトピックやニュースなども紹介することを提案する。

2. よこて市報を利用した発信について

SNS が発達した現代ではあるが、未だに紙媒体の情報も大切にされている。よこて市報は市内全ての家庭に届けられ、公共機関にも置かれていることから影響力は大きいと考える。また、SNS などを使わない高齢者にとっては大きな情報源である。そこで、よこて市報の中に学校紹介ページを設け、広く広報活動することを提案する。2 分の 1 ページあれば 2 校が 4 分の 1 ずつ担当すれば小中学校全てで取り組んでも 9 カ月で一巡できる計算となる。記事も児童生徒が自ら記者となって掲載すれば意欲向上につながり、教育効果もさらに上がると考えるがどうか。